

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070700347		
法人名	館林衣料株式会社		
事業所名	グループホーム多々良の里		
所在地	群馬県館林市木戸町539		
自己評価作成日	平成24年1月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	H24.2.15		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日朝礼を行い、その日その日の心掛けを全員で共有し、利用者に寄り添うべく言葉遣いや行動に気を付けている。
又、ミニカンファレンスを通して、統一した介護が出来る様努力している。
月一回勉強会を開く等し、情報の共有に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は、日々の暮らしの中でケアの姿勢を確認し合い、理念に沿った支援ができるよう取り組んでいる。職員は言葉遣いの工夫や言葉かけを多くして、本人の言葉や行動等から思いや意向を把握し、利用者本位の支援につなげている。管理者や介護支援専門員からは、ケアサービスを向上させたいという前向きな姿勢が感じられた。職員の温かい見守りの中で、利用者一人ひとりが穏やかに伸び伸びと暮らしているように見受けられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務優先にならない様に努めている。ユニット毎に解り易い言葉で、朝の申し送り後理念の振り返りを行っている。	管理者と職員は、申し送り時や会議等で、ケアの方向性を確認し、理念を共有しながら実践につなげている。1年間の目標を掲げ、家庭的な雰囲気づくりやその人らしさに寄り添う支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者個人が地域の一員とはなりえていないが、散歩時の挨拶、イベント時の交流は行われている。 資源ごみ提供は続行。	代表者の自宅がホームに隣接しており、回覧板等で地域の情報は得られている。散歩時に近隣住民と挨拶を交わしたり、野菜等を頂くこともある。子供の育成会の廃品回収に協力をしている。	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所が地域の一員として、近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談窓口にも努めている。見学はいつでも呼びかけ、直接話を聞き、役に立てる情報を伝えている。 実習生受入れも続行。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者の協力も得られ、活発な意見・質問も多く、参考になっている。	運営推進会議は2ユニット合同で、今年度5回開催されている。運営状況等の報告や防災訓練・認知症の判断と対応の問題点等について意見交換を行っている。そこでの意見等をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、事業所の考え方、運営や現場の実情等を伝える貴重な機会である。認知症ケアの実際を理解してもらうためにも、年度内に6回の開催を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議時にはもちろん、電話や更新等で窓口に出向いた際も質問したり、情報を得たいとパンフレット等持ち帰っている。	利用者の報告や申請代行・意見交換等で市の窓口に出向いたり、電話で相談等を行い、市の担当者と連携を図り、サービスの向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会での資料を回覧し、深い意味での理解を今後も続けたいと考えている。	県主催「身体拘束廃止担当者研修」に参加している。資料を回覧し、会議で勉強会を行っている。帰宅願望の強い利用者があり、日中・1階玄関は施錠をしている。(外に出るには決められた番号を押さないと出られない) 2階は玄関を入った扉に施錠をしている。	指定基準で禁止している身体拘束とは、「身体的拘束その他利用者の行動を制限する行為」である。職員の見守りの方法を徹底し、一人ひとりのその日の気分や状態を捉えることで、鍵をかけないケアに取り組んでほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	利用者の尊厳を守ることの徹底には、職員の人間性の向上に努め、体調万全にし、心の余裕が保たれているか注意していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	具体例があまりなく、職員全員の理解には至っていない。研修会には今後も参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解度も異なる家族に配慮して説明し、遠慮なく話して頂ける様努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、より多く話して頂ける雰囲気作りに努めている。こちらからの電話も心掛けている。	本人に言葉をかけ、会話等の中から利用者の要望等を汲みとっている。運営推進会議や家族等の来訪時には意見等を聞いたり、電話で聞く場合もある。出された意見や要望等は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度や定例会議時、出されているが、表現しづらい事がないかにも配慮していきたい。	職員会議や日々の業務の中で、職員から意見や提案を聞く機会を設けている。職員から議題を募集して会議で検討し、職員の意見や気づきを運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意欲が持てる職場づくりを考えている。努力や実績を正しく把握することが大切と考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会へは片寄らず受講できる様配慮し、出席・欠席者双方のレベルアップのためにも、報告会の充実を考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	なるべく交流会参加、電話で参考意見を聞いたりし、施設の改善へつなげたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の穏やかな生活を常に目標にしている。 本音を言ってもらえる環境づくりにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族のご本人に対する思いも良く理解し、なんでも相談して頂ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前のアセスメントを基に、職員との話を充実させていきたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊重し、学び合える家族としての思いを大切にしたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを謙虚に受け止め、橋渡し役として、いつでも話し合える様にしたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	声掛け多くして、本人の思いを引き出せるよう努めたい。 家族とも相談したりして、生き甲斐支援が出来たらと思う。	兄弟や友人等が来訪した際には、「いつでもおいでください」と伝えている。職員が送迎して行きつけの美容院や買物等へ出かけたり、家族と一緒に一時帰宅や買物、外食等に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は平等の支援に心掛け、寂しい思いをしていないかに気を配り、会話や側にいてあげたりしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中の面会にも努めている。 退所後ご家族への電話をしたりすることで、更なる支援の検討に役立つと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者からの言葉、家族からの情報の共有を常に心がけている。 表現されていない部分にも気を付けている。	日々の関わり中で、本人に言葉をかけて、話をよく聞いたり、表情や行動等を観察し、その時々言葉や様子等を「個人ノート」に記載している。家族等からも情報を得て、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	尊厳を基本に、利用者に寄り添うことを目標に、生活歴の把握に努め、価値観にも耳を傾けるようにしたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察を充分に行っていく。そのことで出来る事探しをし、生き甲斐につなげていけたらと考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	なるべくご家族の希望等を尋ねている。 職員が同一ケアが出来る様にも努めている。	家族等から希望等を聞き、職員間で意見交換を行い、介護計画を作成している。3ヶ月毎に定期的な見直し、状態の変化に応じて随時見直しを行っているが、月に1度のモニタリングは行っていない。	本人や家族等の意向や状況を確認しながら、月に1度はモニタリングを行い、介護計画の遂行状況や効果等を評価して行ってほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察記録を1週間単位に切換え、記録を重複せずに、次のケアの改善につながればと考えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者主体を念頭に優先順位を考えて、サービスの改善につながればと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	野菜の差入れや格安な理容で、世話になっている。 こちらから働きかけてのボランティア受入れも検討したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医、家族との受診、職員付添受診とが行われている。 受診表を利用して有効な医療が受けられるようメモを活用している。	本人・家族等が希望するかかりつけ医となっている。家族同行の受診が不可能な場合には、職員が代行し、受診結果を報告している。協力医をかかりつけ医としている利用者は、2週に1度往診を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理が最も大切と考えている。 報告を密にし、適切な対応で不安を与えない様努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、出来るだけ詳しい情報提供し、見舞いを通して家族の支援も出来たらと考えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事例から学び、次に生かせるよう看取りノートで記録している。	契約書の「看取りの指針」を、本人・家族等に説明している。段階に応じて、本人・家族等と十分に話し合って意向を確認し、かかりつけ医及び関係者全員で連携をとり、家族等の意向に沿った支援を行っている。看取りノートを作成して経過を記録している。1階で1名、2階で1名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習会には交代で参加する様努めている。 全員が定期的に訓練をされるようにしたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は行っているが、地震・水害時の地域の協力体制は築けていない。	5月・昼間想定自主訓練で避難誘導・通報・消火訓練を実施している。11月・消防署立会いの下で、昼間想定総合防災訓練を実施している。災害時の地域との協力体制は築けていない。	確実な避難方法を身に付けられるように訓練の増加や職員だけの避難誘導の限界を踏まえて、地域との協力体制の構築に期待したい。災害に備えて備品等の準備をしてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重し、心に寄り添うケアを目指している。 年間の目標としても、言葉使いを掲げている。	個人の人格を尊重し、謙虚な気持ちで接するように努めている。その人に合わせた言葉遣いをするように心がけている。排泄介助時の言葉かけについては、十分注意するよう職員間で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	さり気ない声掛けにも努め、表情や行動を良く観察し、内面からの望みを表し易い様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	穏やかにゆっくりとを心掛けている。 話に耳を傾け、体調や気分にも配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣を大切に、入浴時の着替えを選んで頂いたり、希望品の購入、美容院への外出も支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日職員と一緒にテーブルを囲んで、楽しみながら十分な栄養が摂れる様、食べ易い様にも工夫している。	利用者は下膳・おしぼり巻・うどん打ち・饅頭作りを職員と一緒にやっている。職員も同じテーブルを囲み、楽しく食事ができるような雰囲気を作り、食べ易いように調理の工夫を行っている。行事の際には、好みのものを食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は栄養バランスを保つも、主食量はカロリーオーバーに気を付けている。 水分不足気味の方には、こまめに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人で出来る程度に応じて、見守り・支援している。 歯科受診も積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録は、定着・共有でき、オムツ量減らしや失禁対策に役立っている。 2人介助でも全員座位でトイレで行えている。	排泄記録で個々の排泄パターンを把握し、その人に合わせた誘導や声かけを行い、失禁予防やオムツの使用量を減らせるよう取り組んでいる。失禁時には、本人のプライドを傷つけないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防に向け、ヨーグルト・生ジュース・バナナ・さつま芋等提供。水分や運動の声掛けをしながら、下剤も記録により各自に調節して使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めて行っている。 拒否する人に対して、言葉の工夫やチームプレイで対応。冷え性の人には夜の足浴を試みている。	日曜日を除き、毎日入浴できる体制になっている。一人ひとりの体調や状況に合わせて午前中に支援している。入浴時間については、現在職員間で検討中である。入浴拒否の場合は、言葉かけの工夫やチームプレイで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を多く促し、リズムを整える様気を付けている。 無理やり寝て頂くことなく、暖かい飲み物と一緒におしゃべりしたりもしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は、都度全員回覧により把握している。 服薬の確認も行なっている。 症状の変化も受診表に記録し、活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	うどん打ちや饅頭作りの手伝いをして頂き、感謝を伝えている。 小さな事でも全員が楽しめていけたらと感じる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴・散歩を心掛けているが、屋内で過ごすことが多い現状。 今後少しでも希望に添える体制づくりをしていきたい。	天気が良ければ、外気浴をしたり、近所の神社まで散歩に出かけており、お弁当やお茶を持っていくこともある。多々良沼へドライブに行ったり、季節毎の花見や買物等に出かけている。家族等と一緒に一時帰宅や買物、外食等に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりの預り金管理している。 他に、本人扱いで所持している方も数名いる。 本人の思いや希望を理解していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話かけられる事を伝え、家族からの電話も呼び掛けている。 直筆可能な方、職員も手伝って近況を添えたりして、毎年年賀状は全員発送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のホールの飾り付けは、行事担当職員が分担して工夫している。 居心地良く過ごせるための話し合いをしている。	玄関入口にプランターを設置し、季節の花を植えている。玄関ホールには雛壇を設けて、雛人形や調度品等を飾っている。ホールは広く、テレビやソファ等が設置されている。季節の花や利用者の作品、写真等を飾り、季節感を採り入れる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置についても、時々話し合っている。 居室の温度・湿度はこまめに調節し、居心地に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具等も使い慣れたものを持ち込んで頂き、壁には、誕生カードやカレンダー、自らの作品(塗り絵等)も貼っている。	各居室には、テレビ・時計・誕生カード・カレンダー・テーブル・椅子・家族の写真・化粧品・本人の作品等、好みのものが持ち込まれ、本人が安心して過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には写真・表札を掲げ、トイレ・浴室も解り易くしている。 難聴の人には筆談したりして確認している。		